

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
乳児保育Ⅲ Baby Child Care Ⅲ		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(保育士養成課程選択必修)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
小島寿美代	非常勤講師室	授業内で指示します。		授業中に指示します
授業の概要				
①具体的な子どもの姿、子どもの育つ場所に目を向け、乳児保育の内容、方法を更に深める。 ②「乳児保育周辺」への関心を高め、具体的な対象への対応方法を考察する。 ③それら(①②)を通して、保育者としての自分自身への想いを深める。				
授業の目標				
①これからの実習に向け子どもの育つ環境全般に目を向けられるようにする。 ②子どもの育ちを再考察し、様々な育ち段階にある人々の理解に繋げられるようにする。 ③保育問題をどのようにとらえ、どのように考え、どのように処理していったらよいか、の道筋を考察することができるようにする。 ④乳幼児にとどまらず、人との関わりの仕事で、何が大切なのかに気付くことができるようにする。				
授業の方法				
講義中心であるが、新しい情報、広い視野での資料提供等で学生自らの学習を図る。				
学習の成果(学習成果)				
①ヒトが人として育っていく過程の基として乳幼児期の育ちを捉えることにより、様々な人の理解が深まり、乳幼児保育の大切さを確認できる。 ②保育に関わる物としての心得を、より具体的に考え実践することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 概要説明			
第2回目	[乳幼児の育つ場所で] 家庭を考える。保育を考える。入所施設での生活を考える。			
第3回目	[乳幼児の育つ場所で働くということを考える] 保育者の人間性喪失。保育者のホスピタリズム。			
第4回目	[乳幼児の育つ環境を考える] 特に社会的養護が必要な子どもたち。			
第5回目	[就学までの子どもの育ちを理解する1] 乳児期の重要性を再確認する。			
第6回目	[就学までの子どもの育ちを理解する2] 気になる子どもの姿を通して1をより具体的に捉える。			

第7回目	[就学までの子どもの育ちを理解する3] 様々な発達があり、それをどう捉えるか、乳児の発達に合わせて見ていく。	
第8回目	[保育問題をどう捉えるか1] ①保育問題の成立のメカニズムを知る。②保育者の役割を考える。	
第9回目	[保育問題をどう捉えるか2] ③親子関係と保育者：親の役割という単純な捉え方ではなく、関係性の中での多様な捉え方に気付く。	
第10回目	[保育問題をどう捉えるか3] ④暖かさの感覚：問題解決に向けて、自分の中で何を大切にしていくか。	
第11回目	[保育問題をどう捉えるか4] ⑤了解的方法での保育展開：豊かな自己資料に基づく解決。自分自身が研究対象となること。	
第12回目	[乳幼児期周辺のこと1] ①高齢者、障害者と赤ちゃん：乳幼児の育ちをとして障害者、高齢者を理解する。	
第13回目	[乳幼児期周辺のこと2] ②生活の場での乳幼児との関わり、ということ、具体的なことに結び付けて考える。	
第14回目	保育を総合的なものとして捉える習慣について考える。試験。	
第15回目	授業のふりかえりと考察を通し、保育者の自覚を認識する。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	授業で使われる教材の準備ができている。授業に集中し、ノートをきちんと取っている。積極的な質問ができる等。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験	70%	詳細は事前に説明する。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：「乳児保育」南山堂 授業担当者より適宜指示、または資料を配布する。		
履修上の留意点・ルール		
社会人となることを意識して学習に取り組むこと。		